

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

衆院中国ブロックの 市民と野党の共闘の勝利で 新しい政権を

オンライン演説会で志位委員長が訴える。 中国5県で5千人視聴

2月23日(火)、日本共産党中国ブロックは、オンライン演説会を開催、松江地域で90か所、中国5県で2千か所の視聴会場が設けられ、約5000人が視聴しました。

志位和夫委員長は、「岩国基地を抱え、『桜を見る会疑惑』『河井夫妻疑惑』など、悪政の震源地となっている中国地方で、衆議院比例選挙の議席を奪還しよう。菅政権は、コロナ対策、首相長男の疑惑など、政権担当能力がないのは明らか、日本共産党の『五つの改革』で市民と野党の共闘をひろげ、希望の、

〜 持てる新しい日本へきりかえよう」と、分かりやすくパネルを使って講演しました。衆院比例予定候補大平よしのぶ前衆院議員は、「被爆者の無念の思いを国政に」、すみより聡美同予定候補は「声を上げれば政治はかえられる」と訴えま

国にコロナの支援策を求める 中国ブロック一斉宣伝

中国ブロック一斉宣伝

した。島根2区予定候補の向瀬真一氏ら、各小選挙区予定候補がそれぞれ決意表明。また中国地方の中間地方選挙の予定候補者を代表して、たちばなふみ松江市議選予定候補は「困っている人が少なくなる社会に」と決意を述べました。

で一人から見られると呼びかけました。コロナ感染の心配もなく、自宅などで落ち着いて視聴でき、理解も深まったと好評でした。各予定候補事務所でも視聴会が開催され、たちばなふみ事務所では、女性後援会員9名で視聴しました。大平氏の話に涙したり、候補者や志位氏の話に拍手を送り、温かい集いとなりました。



たちばなふみ予定候補と女性後援会員の演説会を視聴する女性後援会員

2月定例市議会(予算議会)が始まる

コロナ対策など各市議が論戦

2月24日(水) 松江市議会2月定例会、2021年度の予算を決める議会がスタートしました。

コロナ対策など引続きの取り組みが盛り込まれた通常に近い予算案となっています。

提案された予算は、一般会計、981億7600万円。市長選挙前なので、骨格予算となると

コロナの影響で税収の減少が予想されるため、その分、財政対策債という借金で賄われる財政となっています。

その他国民健康保険、介護保険、後期高齢者保健会計など8特別会計、水道、病院、交通ガスなど5公営企業会計の、総合計1878億円の予算となります。

質問戦は、3月1日から3日まで行われ、共産党市議団は、



代表質問を行う橋市議団長



中国ブロック宣伝で訴える尾村利成県議

尾村利成県議は「丸山達也知事、尾村利成・大國陽介県議、舟木けんじ・橋ふみ市議、予定候補、橋祥朗・吉儀敬子・田中肇市議議員団が、訴えました。

事が、県内飲食業者への支援を国が拒否したこと、東京都が感染経路調査を縮小したことを問題視し、オリンピック開催は賛成できない。県内聖火リレーの実施も協力したいと発言したことは当然である。共産党県議・市議は、緊急事態宣言以外の地域の業者支援、医療機関への支援等国に強く求め、2月議会において県、市に対して県民・市民の命・営業を守るために論戦を尽くす」と決意を述べました。

続いて橋ふみ・舟木けんじ市議選予定候補が、いよいよ迫った市議会選挙で新人として頑張る決意を述べ、田中肇市議が市議団を代表して原発のない松江実現のため、選挙で3名の党市議団の実現を訴えました。